

多飲水患者に対するトークンエコノミーを用いた

飲水量自己調節の意識付け

上田歩* 川瀬美幸 足羽愛 山田成功 福田久美江 夏田真理

NHO鳥取医療センター看護部7病棟

Token-economy-based development of the awareness of patients taking excessive water about the need to control the amount of water consumption by themselves

Ayumi Ueda*, Miyuki Kawase, Ai Ashiwa, Naruo Yamada, Kumie Fukuda, Mari Natsuda

7th Ward, Department of Nursing, NHO Tottori Medical Center

*Correspondence:byoutou10@tottori-iryuu.hosp.go.jp

要旨

行動制限を要する多飲傾向にある統合失調症患者に、飲水量自己調節の意識付けを試みた事例について、患者の飲水自己コントロール能力の向上へ繋がった要因を考察した。飲水コントロールの動機付けを高める為にトークンエコノミーを用い、お茶カードと体重表を取り入れて、隠れ飲水時には注意を促さず、患者が飲水以外に興味を持てる様な声掛けを行い、頑張っていることについて具体的に褒める関わりを続けた。また、1日の約束を患者と共に考え、患者自身の“これならできる”と思うことを約束に入れた。その結果、体重の増減が認識できるようになった患者から、「水を飲まんようにする（隠れ飲水しない）」との発言が見られると共にコップを手放せるようになり、自己調節の意識付けが図れた。本事例は短期間の実施であったが、トークンエコノミー法は飲水量自己調節の意識付け及びその維持に有効であった。A氏の中で飲水に対する思いに、上限体重を超えないように飲水しようとする変化が生まれた為、今後も継続した関わりを持つことが飲水自己コントロール能力の回復に必要と考える。鳥取臨床科学 7(1), 12-20, 2016

Abstract

For a schizophrenic patient showing a tendency to drink water excessively and requiring physical restraint, awareness development regarding the need to control the amount of water consumption by himself was attempted. We then discussed factors that helped the patient improve his skills for the self-control of water consumption. To increase the patient's motivation for such self-control, we employed token-economy, tea cards, and a body weight table. We did not warn the patient when he was drinking water in secret. We continued interacting with the patient in a manner enabling him to become interested in things other than drinking water, and praised him in detail for his efforts. In addition, we set achievable daily goals with the patient. As a result, he became able to note his weight reduction and free himself from constantly using cups for drinking water, stating that he was trying to resist the urge to drink water (not drinking water in secret). Thus, the patient became able to recognize the need for self-control. Although the duration of our intervention was short, token-economy was effective in developing and maintaining the patient's awareness regarding the need to control water consumption by himself. The patient made efforts in order for his body weight not to exceed the upper limit that he had set. This finding suggests that continued intervention is needed for the self-control of

Key Words: 統合失調症, 多飲症, 多飲水患者, 精神科看護, トークンエコノミー; schizophrenia, polydipsia, patients taking water excessively, psychiatric nursing care, token-economy

はじめに

川上ら¹⁾は「多飲症とは、飲水に関するセルフケア能力が低下しているために、体重が著明に増加するほどの飲水をしてしまうことであり、過剰な水分摂取により日常の生活にさまざまな支障をきたすことである。(中略)多飲症の最大の問題点は、何らかの原因により水を飲むという行為を自らの力で制御しづらい、もしくは制御ができないことにある。」と述べている。多飲症の原因は様々な仮説が提唱されているが確定的なものではなく、有効確実な治療法がないとされている。

C病棟に入院中の多飲傾向にあるA氏は行動制限を要し、看護師はA氏の水分管理を行い飲水以外のことに興味を持てるよう関わっていた。しかし、開放観察中に隠れ飲水する姿が日に何度も見られ、水分管理が飲水量の減少に繋がるとは言い難い状況であった。A氏自身が1日の飲水量を認識し、隠れ飲水が減少する為に現行の制限中心のケアを見直す必要があると感じ、トークンエコノミーを用い患者参加型ケアを行いたいと考えた。トークンエコノミーが有効であった先行研究は多く報告されているが、多飲水患者にトークンエコノミーを用いた先行研究は非常に少ないものであり、シェーピング法との併用²⁾や飲水に変わるものとして飴を渡す³⁾報告くらいであり、体重表を使用した研究は無かった。

本事例では、A氏がゲーム好きであること、承認欲求が強いこと、日頃の関わりから視覚的な情報が理解しやすい傾向にあることに着目し、トークンエコノミーを用いる事で飲水コントロールのモチベーション向上に繋がるのではないかと考えた。

用語の定義

トークンエコノミーとは、一定の課題を正しく遂行できた時にあらかじめ約束した条件に従ってトークン(代理貨幣)を与え、目標の量に達した時点でそのトークンをエコノミー(流通)に展開することで目標とする行動を強化する事である。

I. 目的

トークンエコノミーを用いたアプローチにより飲水量自己調節の意識付けを試みた事例について、A氏の飲水に関する言動と看護師の関わりを振り返り、A氏の飲水自己コントロール能力の向上へ繋がった要因を明らかにする。

II. 倫理的配慮

倫理審査委員会で承認を得た後、対象者と保護者に研究の目的と方法、研究への協力は自由であり、協力の有無は治療や看護に影響を与えず不利益は受けないこと、匿名性の確保について、研究結果は学会等で発表することを書面と口頭で説明し、同意書に署名を得た。

III. 研究方法

- 1.研究デザイン: 実験研究
- 2.研究期間: 平成 25 年の倫理審査承認後から平成 26 年 3 月.
- 3.データ収集方法

データ収集期間は、研究前と研究中の開放観察が行われた期間、各々35日間であった。カルテより研究前、研究中の体重、飲水に関する言動、精神状態(易怒性・独語・大声・表情・妄想の訴え)、看護師の関わりをデータ収集した。又、研究中は新たに作成したA氏日誌に、①開放観察時間、②体重測定とお茶カードの反応、③その他飲水に関する言動、④看護師の対応とその結果、⑤16時に